



さくらっこ!



戸塚区青少年指導員協議会は



目次

P. 1...子育てにおける「多様性」 / P. 2・3...戸塚区内の各地区紹介!
P. 4...学齢期の子どもの居場所 ~子ども食堂と学習支援~ / 2023年度 上期行事・2023年度 下期行事予定

子育てにおける「多様性」*****



以前にこの子育てワンポイントで「多様性」について触れたことがありました。

「多様性」とは、価値観や考え方を含めたそれぞれ個人の違いを認めて、お互いを尊重する姿勢や心構えです。人それぞれ違っていてもいい、人それぞれ違って当たり前、とお伝えしました。

この価値観や考え方の違いを知るには、自分と異なる考え方や意見にこそ耳を傾け、自分と違う言動に注目する必要があります。そして相手との違いをしっかりと認識することが「多様性」への第一歩です。

今回は子育ての中で、子どもとの違いを認めることについて子どもの成長を追いながら見ていきたいと思います。

※以下の年齢表示は目安です。個人差があります。

※以下の年齢表示は目安です。個人差があります。

<自我の芽生え> 2歳頃

運動能力が付くことで「ああしたい、こうしたい」と自分のしたいことを示すようになります。

親にとっては「私も(子どものころは)こんなだったのか」「(自分の)親も苦労したんだな」と、我が子であっても“異なる個性”として違いを認め、好奇心を持って大切に育てる時期です。

<イヤイヤ期> 3~4歳頃

行動範囲が広がり、ますます自己主張が強くなります。第一次反抗期とも言われ、親や周りの言うことを聞かず反抗します。早ければこの時期からジェンダーレスを自覚する子どももいます。

親としては「男の子は…」「女の子は…」と言うような自分の「決め付け」「思い込み」を脇に置くことも大切です。

<学童期> 6~12歳頃

学力も付き友達関係も広がる一方で、子どもたちの中ではまだまだ「多様性」への意識は育たず、自分たちと異なる

相手に対して「いじめ的行為」が発生したりします。

親としては睡眠、食事などの「生活態度の変化」に注視し、もし変化が2週間以上続くようであれば「何かあったの?」と「聴く姿勢」が大切です。その際、子どもと自分との価値観の差、考え方の差をしっかりと受け止め認めることが重要です。認めることは賛成でなくても良いのです。

<青年期> 10歳頃~

心と身体が大きく成長する時期です。論理的思考力も身に付いてきて、自分と他者の違いにも意識が強くなり、親と精神的・物理的に距離を取ろうとする親離れの時期でもあります。つまり「多様性」に関心が強くなる時期です。それゆえに仲間意識が強くなり、ストレスを引き金に仲間外れや無視といった「本格的ないじめ」が発生する時期でもあります。注意すべきは「親に心配をかけたくない」といじめられている事を隠す場合です。

親としては前項と同様に「生活態度の変化」に注意が必要でしょう。子どもの価値観や意見を受け入れることはもちろんですが、意見の対立を恐れず対等な大人同士として自分の意見や考え方を伝えることも大切です。

親と子、一緒に暮らしているだけで親の持つ価値観の多くが子どもに引き継がれることは少なくありません。しかし、多くの親子では20歳以上年が離れていることと思います。社会環境、生活環境、情報の量や質は親子で大きく異なっているはずですが、価値観や考え方は違って当たり前という前提が大切です。

また私たちは人間関係の煩わしさを避けるために、つい「人それぞれだから」と対話もせず距離を置こうとしてしまいがちです。私たち自身が日頃から常に相手と真剣に向き合い、「多様性」を認め合う姿勢を大切に心がける、その姿勢こそ、是非子どもたちに引き継いでいてもらいたいですね。

